

しじまにかかる帷 店仕舞する雲雀
グラデの空を昇り 告げているよ

苦しみも憎しみも 夜露に濡れたら
あくる朝ピカピカの 笑いに変わる

朝もやに来る手紙 とても気になる中身
パイにくるんで焼いて 開けてみたら

「君宛に今度ね 手紙を書こうか
迷っているんだ どうしたらいい？」

昼下がりに夢を見た 夕暮れの夢を

しじまにかかる帷 店仕舞する雲雀

作戦なんて立てないで動き出した
最前線に飛び交った砲火
收拾なんてつかないよ 意味なんて無い
銃創負ったこの胸に訊いて

知りたい事はわりとあるのに
地雷は一つ見つけてるけど
踏み出せなくて立ち尽くしてるよ

生きて還れるなんて思わないけど
不安混じりの二等兵さ
声を聴いて 声を聴いて 止まれないな今は

作戦なんて練らないで廻り出した
人海戦術突撃の僕ら
收拾なんてつかないよ 意味なんて無い
銃創負ったこの胸に訊いて

知りたい事はわりとあるのに
地雷は一つ見つけてるけど
踏み出せなくて立ち尽くしてるよ

直情型の女の子はお嫌いですか？
引く手数多の貴方ですが
声を聴いて 声を聴いて 止まれないな今は

生きて還れるなんて思わないけど
不安混じりの二等兵さ
声を聴いて 声を聴いて 止まれないな今

直情型の女の子はお嫌いですか？
引く手数多の貴方ですが
声を聴いて 声を聴いて 先が見たくって

うそっぱちのマリア

song & lyrics / frottageshi

甲状腺から間欠泉出て最前線からモルドバへ
足早に駆け抜けて
白兵戦から徒手空拳なら六文銭もてシベリアへ
乾かない舌の根を

X線なら環状線まで透けて見えるからバタヴィアへ
騙された君の負け
遊覧船から見渡す限りの生命線なるセルビアへ
見抜かれちゃお別れね…

懲りないうそっぱちのマリア
お気に召したらお手をどうぞ

甲状腺から間欠泉出て最前線からモルドバへ
足早に駆け抜けて
白兵戦から徒手空拳なら六文銭もてシベリアへ
乾かない舌の根を

懲りないうそっぱちのマリア
お気に召したらお手をどうぞ
懲りないうそっぱちのマリア
お気に召したらお手をどうぞ

甲状腺から間欠泉出て最前線からモルドバへ
白兵戦から徒手空拳なら六文銭もてシベリアへ
X線なら環状線まで透けて見えるからバタヴィアへ
遊覧船から見渡す限りの生命線なるセルビアへ

つかみ男は棒術使いの夢を見るか？

song & lyrics / frottageshi

鳳（フェン） 揺れる扁桃体 傾く大脳辺縁系
至らない刺激が 薄弱な自我、消耗
入れ子の箱の中の中

凰（ファン） 歪む胎蔵界 普（あまね）く前頭連合野
止め処無い喜劇が 鮮烈な飢餓・昂揚
振り子がゆやゆよんと振れて

精々智慧を巡らして 声に怯え眠れよ
上腕軋む抱擁は 節のくれた拳で
陰獣ばりの妄想で 泥に潜む蛇
豪腕振るう高楼は 夢の夢さつかみ男

凰（ファン） 歪む胎蔵界 普（あまね）く前頭連合野
止め処無い喜劇が 鮮烈な飢餓・昂揚
振り子がゆやゆよんと振れて

精々智慧を巡らして 声に怯え眠れよ
上腕軋む抱擁は 節のくれた拳で
陰獣ばりの妄想で 泥に潜む蛇
豪腕振るう高楼は 夢の夢さつかみ男

殷周秦漢三国人なら都知事の言葉も cut up
天網恢々粗にして漏らさず 年々歳々空心菜
大枚叩いて買った自転車で万里の長城越えて行こう
流星のペダル一盃口 不意の春雨に濡れて行こう

精々智慧を巡らして…
上腕軋む抱擁は…
陰獣ばりの妄想で…
豪腕振るう高楼は 夢の夢さつかみ男

レゾンデートルくチョコレート

song & lyrics / frottageshi

アマリタの夢 醒めずに
ゆらゆらな画面
顔も 声も ただの 記号さ

ワームホールから昨日へ
帰れたらいいな
次は上手くやれる気がする

ラウララ 因果律と 殴り合うように
君攫うような 意志があれば
今頃、僕は君をキャッチして

イビザの二人みたいに そう、微笑みながら
きゅっと手と手を繋いでただらうか

罪も痛みもチョコレートも分け合いながら
ささやかでも暮らせてただらうか

ラウララ 因果律と 殴り合うように
君攫うような 意志はなくて
未だに 僕は君をスケッチして

些細な選択肢にも またためらいながら
ぼやぼやして 何かを無くしてる

罰も癒しもレゾンデートルも無いこの僕は
寒い部屋で 虚空（そら）の足を愛でる

カノンとかめみたいに そう、微笑みながら
きゅっと手と手を繋いでただらうか

罪も痛みもチョコレートも分け合いながら
ささやかでも暮らせてただらうか

罰も癒しもレゾンデートルも
罪も痛みもチョコレートも

ELMO の映写機が眠る箱の中で
夢の数を数えて
互いのフォーカスが逸れてしまってから
現像したフィルムに

狭い坂道で猫に振られてる無邪気な姿が
たった 8mm の幅の隙間へ染み着いていた

青写真がブルーフィルムになった
君の顔もマワセなくなりました
青写真がブルーフィルムになって

狭い坂道で猫に振られてる無邪気な姿が
たった 8mm の幅の隙間へ染み着いていた

青写真がブルーフィルムになった
君の顔もマワセなくなりました
青写真がブルーフィルムになって

思い描いた

青写真がブルーフィルムになった
君の顔もマワセなくなりました
青写真がブルーフィルムになって

意味の無いゲームを繰り返したね
リセットした瞬間に忘れるクセに。

(存在の散りゆくその状況)

(情報を揉み消すかの原罪)

痛くないさ

(潜在的意識のその本懐)

(散開する儀式はそもえん罪)

辛くないさ

焦げるような危険に胸踊らせても
痛みのない PEEP SHOW

意味の無いゲームを繰り返したね
リセットした瞬間に忘れるクセに。
意味の無いゲームを繰り返したね
リセットした瞬間に忘れたクセに。

飛べよ霧の中 懺悔を繰り返し
いざや思い出も 切り裂く尾翼
そうして紡ぎ出す 寓話は蔓延し
窮地を抜け出して 飛び去る機影

ほころびた顔に浴びせる 怒号と感傷
蔑んだ視線を遮る 飛ぶ鳥大破

声は届いていますか 雲を越えて
君の巡る先には 僕はいないけど
管制塔の上から
管制塔の上から

道化た戯れ言を 漏らす唇に
興じる戯れの 言葉も止めて
そうして語り部の 挿話は浸透し
周知の事実として 語り継がれて

干涸びた花に捧げる シャワーと太陽
期待する心を裏切る 無邪気な僕ら

声は届いていますか 雲を越えて
君の巡る先には 苦難を添えて
声に耳をすませよ 霧を裂いて
君の帰る所に 僕は待ってる

管制塔の上から
管制塔の上から
管制塔の上から
電波を飛ばす夕暮れ